地域の方々に支えられた「なわ通学合宿」

名和公民館

10月2日(水)から6日(日)までの4泊5日間、名和小学校児童の希望者25名が、御来屋漁村センターで行った「なわ通学合宿」に参加しました。

〝通学合宿〟とは、小学生(4年～6年)が親元を離れ、寝食を共にしながら炊事や掃除などの協同活動をし、学校に通う生活体験です。

初日は、班別で夕食の食材の買物をしてカレーを作りました。スープ風のカレーや煮込み不足のカレーに具が少ないカレーと、出来ばえは様々でしたが、自分たちで作ったカレーは一味違います。また、5日(土)は、「まち学体験」で御来屋の板谷米穀店・角田酒造・塩谷糀味噌店を訪問しました。インタビューをする人、カメラマン、記録係と役割に分かれて取材をし、後はまとめとして新聞作りをしました。(名和小学校で展示中)

その他にも、避難所生活体験や自分たちで企画運営をした交流タイムでの肝だめしなどさまざまな体験をした5日間でしたが、ルールを守りながら、テレビやゲームのない生活をすることは、子どもたちにとって窮屈で我慢の連続だったはずです。しかし、この我慢がストレスに負けない大切な力になると考えています。全員、最後まで頑張り、個人差はありますが、達成感を感じたのではないでしょうか。

今回の通学合宿は、初めての試みとして、地元の漁村センターを会場に、実行委員会を軸として、企画運営を行いました。食材提供や調理協力、宿泊、活動サポートなど、多くの地域の方々に支援していただきました。ご協力ありがとうございました。

▲漁村センター前で記念写真

▲「まち学体験」塩谷糀味噌店で取材中！

育つ・つながり・ほのぼのと

子育て支援センターなかやま

子育て支援センターなかやまが新設されて一年半が経ちました。

センターには、保育園に通っていないお子さん連れの家族の方や、妊婦の方が遊びに来られます。

初めて来られた方は慣れないこともあり、なかなか話が弾まないこともありますが、子どもと一緒に遊んでいるうちに子育ての話などで盛り上がっていきます。

子どもたちも、年齢によってさまざまですが一人遊びから始まり、だんだん友達と関わって遊べるようになっていきます。

遊びに来ているうちに、子どもたちは、皆と顔見知りになり、名前を覚えて呼び合ったり、帰るときには、みんなにあいさつをしたり、手と手を何度もタッチして満足そうに帰っていきます。

お母さん同士もつながりができ、子育ての話をしたり、自分の悩みを打ち明けて共感しあったりして、すっきりした気分で帰っていかれます。

子育て支援センターは、子どもたちに遊びを提供する場であるとともに、たくさんの人に出会い、関わりがつくれる場所です。

「支援センターへ行けば誰かに出会える」「誰かが話を聞いてくれる」「子どもを遊ばせたい」そんな気軽な気持ちでご利用ください。

毎月行っている育児学級や催しでは、子育て支援センターならではの遊びをたくさん用意しています。ぜひ一度お出かけください。

▶いつきても楽しいな！